

令和元年度まちづくり座談会における質問・要望事項と回答

■ 蚕桑地区：9月13日（金）午後7時30分～9時

参加者数50名

① 蚕桑地域防災計画について

Q. 3点ほど質問があります。

一つ目は災害情報の伝達手法についてです。今ある防災行政無線が西側の方では聞こえません。そこで聞きたいことは防災ラジオについてです。置賜地区において、他の市町村では世帯に配布しているようですが、白鷹町だけが配布されていません。どのように考えているのかをお聞きしたいです。

二つ目は避難所開設についてです。蚕桑地区では、蚕桑小学校と蚕桑地区コミュニティセンターが避難所となっています。これまで何日間も避難所生活をしたということはありませんが、今後実際に起こらないとも限りません。そこで、避難所開設が行われた場合、開設までスムーズに行われる体制が整っているのか。また、必要な備品や食料品等が揃っているのかお聞きしたいです。

三つ目は、災害が発生した場合、区長におかれましては自主防災組織の長にもなっており、各地区・地域に指示を出さなければなりません。その様なときに地区内での連携、他の地区との連携がとれるような体制になっているのか。お聞きしたいです。

A. まず1点目の災害情報伝達についてです。本町ではまずJアラートの放送による伝達を行っておりますが、地域によっては聞きにくいというような意見も頂戴しております。その補填として、町報の方でもお知らせをしておりますが、緊急メール情報サービスを送信させていただいております。スマホをお持ちでない方に対してもテレホンサービスでも確認できるようにしている状況です。よって、まずはJアラートが鳴っていると思ったら、緊急メールやテレホンサービスで確認していただきたいと思っております。

また、先ほどありました防災ラジオについてですが、これまで何度か検討なされたようです。整備するにあたり莫大な費用がかかるようです。また、防災ラジオが鳴るとうるさいということで電源を切る方も中には見られるようでして、広報の仕方もあるとは思いますがそういった状況を踏まえまして、今のところ難しいと判断しております。

2点目の避難所開設についてですが、全職員に災害初動マニュアルを配布しております。各地区にも地区担当職員を配備しており、第3次配備としてあり、必要に応じて対応するようにしています。コミュニティセンターが避難所となっておりますが、カギについては町役場の方にも保管しておりますので、職員がいけば開けられるようになってはおりますが、自主防災組織等で早めに開けていただければ大変有難いと思っております。

3点目の自主防災組織の連携についてですが、まずはそれぞれの自主防災組織を中心に対応して頂きたいと思っておりますが、総務課の方で情報をとりながら連携をとらせていた

だきたいと思います。また、町の方で連絡協議会というものをやっており、各地区の自主防災の方にも連絡をとらせていただいておりますので、連携はとれているかと思えます。その時々状況に応じて対応していきたいと思えます。

備蓄については、各コミセンの方に米、水を若干ですが備蓄をしております。また、役場の防災倉庫の方にも備蓄がございます。他にも簡易トイレやパーテーション、寝袋なども準備しております。防災倉庫も新しくなったことから、今後も準備を進めて参りたいと思えます。

- Q. 危機管理の基本として、最悪の場合を想定することだと思えます。防災ラジオだとコンセントから抜いておく人がいると話しますが、防災ラジオについては停電になったときでも電池で動くはずで、しかもスイッチひとつで瞬時に情報を知れると思えますのでぜひとも配布するよう検討してもらいたいと思えます。避難所については、配置以外指定されていると言われますけど、どのレベルで避難するのかなど詳細な部分もお聞きしたいです。備蓄についても役場やコミセンにあるのはわかりましたが、主要の避難場所である蚕桑小学校にはパーテーションなどの備品を設置する予定はあるのでしょうか。
- A. 防災ラジオにつきましては、何度か検討はさせていただきました。実際に防災ラジオを配置している地域の状況なども確認してきました。これにつきましては何年か前に庄内地区で地震があった時に、3割近くの方がコンセントから抜いていたという事例もあります。町の悩みとしては、全エリアをカバーできないことです。カバーするためにおらんだラジオにも相談しましたし、FM山形さんにも相談しましたがどうしても中継基地が必要とのことでした。中継基地についても話がまとまらなかったこともございました。備蓄につきましても、東日本大震災以降、電気のありがたみというものを非常に感じまして、各地区コミセンに自家発電装置を設置しました。今後も少しずつではあります準備をさせていただきたいと思っております。
- Q. 避難場所は各公民館、コミセン、蚕桑小学校ということですが、このたびの九州の災害でも取り上げられましたが、高齢の方と連絡が取れないとテレビや新聞で聞きましたが、蚕桑地区の中でもし災害が発生した場合、高齢で避難したくても自力で避難ができない人が当地区にどのくらいいるのか、把握はしているのか、またどのようなフォローをしていたのかお聞きしたいです。
- A. 高齢者の一人暮らしや高齢者のみの世帯で災害が起きたためのためにまとめております「要配慮者台帳」があります、これにつきましては民生委員の方にご協力いただきながら担当の地区の状況を把握していただいて、配慮が必要な世帯を町に報告いただきまとめております。ちなみに、蚕桑地区におきましては95世帯が台帳に登録されています。登録にあたっては本人の合意が必要でありますので、そういった手続きを進めまして整備させていただいております。この中身につきましては民生委員、自主防災組織、社会福祉協議会で情報共有をしております、災害対応等に役立たせていただきます。この方々へのフォローとしましては、身近な存在である自主防災組織の方々により情報

を活用していただいて安否確認や避難等のサポートをお願いするしかないと考えております。この初動の体制が進んだ後で必要な支援や情報収集を進めさせていただきながらボランティアまたは社会福祉協議会などで順次対応して参りたいと思います。

Q. 地区担当職員について、まだ自分で判断ができない若い職員を配置しても、度々役場に連絡して教えてもらうようじゃ時間がかかってしまうわけなので、自ら判断し初動でスムーズに動けるような、もう少し上の方に就いていただきたいと思います。

A. 厳しい意見をいただいたところですが、災害が発生した場合は職員の方で現場確認等をするような形でおります。対応につきましてははっきり連絡等を取り合っただけで済ませたいとおもっておりますのでご理解の程よろしく申し上げます。

② 有害鳥獣対策について

町：まず、今年度の有害鳥獣の捕獲及び被害状況について説明します。8月31日現在までの状況となります。はじめにイノシシについてですが、近年、山形県全域で数が急増しております。本町についても、今年度は9頭を捕獲しております。区長、副区長、町内長が集まった会合でも町からのお願いということでさせて頂きましたが、被害や目撃をした場合には農林課の方にご一報いただきたいと思います。現在、イノシシ被害については川東に集中している状況です。西側からの情報はまだいただいておりませんが、本町でイノシシが最初に捕まったのは高岡地区でしたので、間違いなく西側にも住んでいると考えられます。最近でも、イノシシなのか確認できませんでしたが、西高玉の方で荒らされた形跡がありました。秋になりまして、最近の傾向としてはデントコーンが被害にあっているようです。デントコーンにおいては、熊による被害も出ています。

その熊についてですが、今年は鮎貝小学校にも出没しました。熊は保護動物の対象となっていることから、捕獲には許可が必要になっています。これまで12件の申請があり、その後2件の追加がございまして、現在は14か所に罠を仕掛けております。罠設置の許可については、県に申請する場合と町に申請する場合の2パターンがあります。住宅地に出没した場合、緊急性を要するため、最終的には町長の判断で設置することとなっております。

民家から離れた畑などに出没した場合は、県の許可が出てからの設置とさせていただいております。これまでの熊の捕獲件数は9月7日までに3頭の捕獲です。目撃及び被害状況については、西側、東側関係なく出没しているようです。

町としましては、農業被害を減らすための対策として電気柵の設置支援をさせていただいております。大きく2つの制度がありまして、1つ目は有害鳥獣被害軽減モデル事業になりまして、県と町が協力して1/2補助（上限20万円）として支援します。もうひとつは町単独でおこなっております有害鳥獣被害対策緊急事業というものになりまして、補助率は1/3（上限10万円）となっておりますが、町単独でも支援

させていただいております。いずれも販売農家さんが対象となっております。有害鳥獣被害対策緊急事業についてはだいぶ活用いただいている状況でございます。まだ枠もありますのでご一報いただければと思います。また、罟を設置し捕獲した有害鳥獣を処分するために必要となるのが銃であるわけですけれども、その銃について、取得支援も実施しております。町鳥獣対策協議会というものがあまして、そちらで新規狩猟免許取得等支援事業ということで実施しております。今年度の要件としましては、町内在住の65歳以下の方、そして必ず猟友会に入会いただくとしております。上限は5万円としまして1/2補助でさせていただきます。銃取得の前の段階である罟設置についての免許取得も含む総合的な支援とさせていただきます。

相手が野生の動物ということもありまして中々コントロールがむずかしいこともございます。猟友会の会員の方にも早朝から活動していただいておりますところですが、中々捕獲まで至らないことも事実でございます。以上で説明とさせていただきます。

- Q. イノシシや熊といった獣の状況はわかりましたが、鳥の方の状況はどうなんでしょうか？最近、最上川を中心として水産物（特に鮎の幼魚）の被害も増えてきています。カワウやサギといった鳥の繁殖状況は把握しているのか。駆除も試みたと聞きましたがその辺はどうなっているのでしょうか。
- A. 鳥につきましても、カワウやサギの対応をしております。さきほど、鳥獣対策協議会とお話しさせていただきましたが、その協議会の中には町、農協、山酪、漁協などはおありまして、主に川魚等に被害を及ぼす鳥の駆除については、漁協が主体となって猟友会の協力のもと駆除にあたっている状況です。サギにつきましては6月15日に住処としている白鷹陽光学園の裏の林で早朝に駆除を実施しました。カワウについても漁協さんよりご依頼があり対応しておりますが、中々成果としてあがらないのが現状です。狙っているものの的中しないという状況です。
- Q. そのほかにも最上川の鮎に非常に悪さをするブラックバスの状況について、調査や駆除を実施したのか。また、今後実施する予定はあるのか教えてください。
- A. 鮎につきまして、昨年はヤナに1200~1300匹ほどしかかかりませんでした。おそらく史上最低の状況でございました。渇水期にカワウの被害やブラックバスの被害があったことが原因かと思えます。それを踏まえて今年は漁協といろいろ考え、鮎の放流についても従来の2倍の大きさのものを放流しました。現在は放流した鮎もかかっているということでお話をうかがっております。ブラックバスの調査ということにつきましては県の方や最上川の第一漁協とも協議をさせていただいた中では、電気ショッカーが有効だと言われました。しかし、水量が安定しないこともあり、今年については実施しないようであります。ブラックバスが多く生息している場所は荒砥橋付近とつぶて石付近だということです。漁協のほうでもブラックバス釣り大会など開催しておりますが、参加数は少ないようです。ブラックバス対策については必要であると考えておりまして、来年度に向けて漁協とどういった対策が有効なのかを検討して対応して参りたいと思います。

Q. 天然記念物であるカモシカについてです。最近、住宅地まで出没し、農作物を食べられる被害が出ています。カモシカについては町や警察に相談しても有効な手段はないと聞いております。自力で守る対策として何か良い方法はありますか？

A. カモシカについては、県にも確認はしましたが、おっしゃる通りの回答でございました。こちら側から手をかけることは一切できませんので、やはり守るということが一番大切なのだと思います。農林の方でもそのような相談をうかがっております。過去に山形市で個体調整を行ったようです。その際にまず行う個体数の把握が非常に大変とのことでした。その後、文化庁に行き個体数調整の許可をもらわなければならないということで非常にハードルは高いようでした。そういった状況から自分で守ることが大切である電気柵が有効だと思います。そのあたりの視点も持ちながら、今後検討していきたいと考えています。

Q. 電気柵の補助についてですが、国の補助には100%補助のものがあると聞きました。どういった補助なのでしょう。

A. まずは複数の地域でグループをつくって取り組んでいただく必要があります。山口地内ではそういった形で広く電気柵を設置した例もございます。そのような場合に活用できる補助金となっております。活用する場合には、地域間で意識の共有と協力をし合っただけでいただくことが必要かと思えます。

③ 自由意見

Q. 新しい庁舎が完成しました。何度か訪れましたが、職員の方の空間が前の庁舎の時より窮屈そうに見えます。また、町のシンボルであった鷹の像ですが、今後も設置する予定はあるのでしょうか。

A. 職員の空間について、ご心配いただきありがとうございます。建設する際に、町民会議等で議論をさせていただきました。そのなかで当初よりも共有スペースを広く確保するようになり、延べ床面積は変わらないが、共有スペースは広くとることになりました。それでもゆずりあいの精神で何とかやっていく予定です。また、鷹の像についてですが、3.11の影響で像の足元部分に亀裂が入っていました。製造元にも確認しましたが、当時の資料がなく、鑄造元にも問い合わせはしましたが、修繕はできないという話をいただきました。今後設置するという事についても安全面を考慮すると難しいかと思えます。ただ、町民の方からも多く問い合わせをいただいております。今後については検討してまいりたいと思えます。

Q. 1点目に上の台公園の電線が切れています。春先に商工観光課のほうに修繕依頼をしましたが、いつ直されるのでしょうか。2点目に25、26年の水害の際にも問題になりました小学校の校庭の排水の悪さについて、安全対策ということで町に毎年要望しておりますが、回答が得られません。校庭の下の家が冠水するおそれもあります。25、26年の水

害の時も消防団の方の協力をいただいて土嚢を設置して何とか防いだという経過もあります。そのようなことも踏まえて排水対策をお願いしたいです。

A. 上の台公園の件につきまして、町の管理であります但地元の方の協力をいただいて委託させていただいておりますが、今回、電線の修繕が遅れていることについてお詫び申し上げます。キャンプ場の設備としては、老朽化している現状がありますので、今後の使い道なども検討したうえで早めに対応したいと思いますので、ご理解のほどお願いいたします。

蚕桑小学校の排水についてですが、区の方から要望をいただいております、回答の方をさせていただいておりますが、全体的な調査をしっかりとしてみないと対策は考えにくいと思いますので、まずは調査をさせていただいて取り組んでいきたいと思っております。地区：何年も前から蚕桑地区の要望として出しております。それに対してもう少し誠意の持った対応をしていただきたいと思います。

Q. 西廻り幹線道路について、鮎貝・蚕桑地区から始まった組織が今は長井市にまで広がり、なるべく早く実現を目指すということで取り組んでいますが、先般、総会があった中で、やはり、我々住民も巻き込んだ形での運動にしていけないと大変なのかなと思われたので、そういったことも踏まえてより民間の力も借りた具体的な取り組みを考えてほしいと思っております。

A. 大変心強いお言葉ありがとうございます。先日、長井市と白鷹町で発足した同盟会の総会がありました。そのなかで、国会議員や県議会の方、県関係者の方に要望書を提出させていただきました。今後におきましても、住民の熱意を伝えていきたいと思っておりますのでよろしく申し上げます。

Q. ヘリコプターの着陸地として、これまで西中学校のグラウンドになっていましたが今は使えません。もし、羽越水害のような大規模な災害が起こり、西側が陸の孤島となった場合に、救急搬送などでヘリコプターが必要になった時に臨時のヘリポートについてどのように考えているのでしょうか。

A. 臨時のヘリポートにつきましては、ソフトボール場の駐車場を考えております。冬期間も除雪しておりますので、今後もそのように対応していきたいと思っております。